

『スポーツとくつろぎの融合』

昭和51（1976）年の若楠国体と時を同じくして整備された、白岩運動公園と白岩体育館。スポーツの拠点として、また、生きがいや交流などそれぞれのシーンにおいて重要な役割を果たし、多くの市民に利用されています。近年、多様化するニーズへの対応や安全性の確保、老朽化対策、もしもの災害の時の対応など改善していくべきことが多くあります。そこで、「スポーツとくつろぎの融合」を基本理念と定め、「新たなまちの賑わいの創造」や「新しいスポーツ文化の創造」を目指し、「武雄市白岩運動公園・新体育館整備基本計画」を策定します。

白岩運動公園のコンセプト「みんなにやさしい開かれた空間」

- まちに開かれ、賑わいがあふれる空間
 - ・まちの活性化や回遊性の向上に好影響を与えるひとつの場所として、そこに人々が気軽に集い、出会い、ふれあい、つながる交流空間をつくりまします。
- 家族も仲間もひとりでも、1日過ごせる楽しみがある空間
 - ・市民が生涯にわたり、いつでも、だれとでも、それぞれの時間の楽しみ方が広がる空間をつくりまします。
- もしもの災害にも、市民に寄り添う空間
 - ・災害が発生したときの拠点となる空間をつくりまします。

新体育館のコンセプト「スポーツから新たなシーンが始まる体育館」

- みんなの1歩を呼び起こす、きっかけが見つかる体育館
 - ・年齢や体力、経験に関係なく、スポーツに触れたり体験し、生活の中にスポーツを無理なく取り入れ続けることで、健康で幸せな生活を送ることができる環境を整備します。
- スポーツによる新たな文化が始まる、楽しい体育館
 - ・ハイレベルの大会から市内大会まで、大小様々な競技スポーツ大会を開催、観戦できる環境を整備します。
- 市民生活のあらゆる側面をサポートする、使いやすい体育館
 - ・災害が発生したときの避難所、救命・救助活動等の拠点としての機能を整備します。
 - ・ユニバーサルデザインに配慮し、様々な目的で訪れる市民の憩いや交流の場にもなるよう、オープンスペースや駐車場を十分に確保します。

【想定事業スケジュール】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新体育館 (移転建替)	・設計	・工事	→	
白岩体育館 (除却)			【解体】	
白岩運動公園 (体育館周辺整備)	・設計		・工事	→
北方西体育館 (除却)			【一部利用開始】	【全面利用開始】
				【用途廃止】 (以降5年内)

新体育館整備は、現在の白岩球場敷地内とします。

建設中は現行どおり白岩体育館を使用し、新体育館建設後に現・白岩体育館を解体することとします。「公共施設等適正管理推進事業債」を活用することとし、武雄市公共施設等個別施設計画（スポーツ施設編）に基づき白岩体育館と北方西体育館を集約することとします。

☆ 白岩運動公園が“変わります！！”

- 緑の広場を整備します。
- 健康増進施設等、民間資本の誘致に取り組みます。
- 駐車スペースが広がります。

☆ 白岩体育館が“変わります！！”

- 公園と一体感のある開放的な体育館を目指します。
- 4面のつながりある観客席で観戦の幅が広がります。
- ウォーミングアップや雨天時のランニングなども可能なスペースを確保します。
- 熱中症対策にも安心な空調を整備します。
- 無料公衆無線LAN（フリーwi-fi）を整備します。

想定諸室 (主なもの)	想定する機能や内容、考え方の要点
メインアリーナ	・国民スポーツ大会競技施設基準を参考とした競技コートを確認します。 ・天井高は国際バレーボール連盟等の規格とします。 ・利用者の負傷の恐れのない床材とします。
メインアリーナ 2階観覧席	・メインアリーナを4方向から観ることができる観覧席にします。
サブアリーナ	・サークル活動や各種教室の場など、多目的な利用ができる機能を確保します。 ・壁面への鏡設置や音響や照明等にも配慮します。
軽スポーツルーム	・トレーニングや各種ニュースポーツに対応し、少人数でも気軽に利用できるスペースとします。
会議室	・多用途での利用を想定します。 ・大会時等、利用しやすい配置とします。
こどもスポーツルーム	・こどもが安全に遊び、自由に体を動かしながら基本的な運動能力を養うことができるように整備します。 ・親子ともにスポーツに触れ合い、交流できるスペースとします。
ロビー・ラウンジ	・開放感があり、自由に利用できるスペースとします。 ・サークル等の情報を発信したり受け取ることができるコーナーを設置します。

※面積、配置等の詳細は、今後の設計においてすすめていきます。